

かんてつ 貫徹通信

発行責任者：おおや 徹

発行日 2014年1月【第17号】

発行者 大矢 徹

連絡先 0466(23)5711

<http://www.ohya-toru.com/>

[mail:ohya.toru@gmail.com](mailto:ohya.toru@gmail.com)

年頭にあたって 2014

穏やかな天候に恵まれ、新たな年を希望に満ち、元気一杯で迎えられたことと存じます。昨年は、皆様のご支援により、日々藤沢市議会議員として、力強く活動させていただいたことに、心より感謝申し上げます。

正月恒例の箱根駅伝では、東洋大学が圧倒的な強さを見せ、総合優勝を果たしました。山梨学院大学の留学生オムワンバ選手が、2区で疲労骨折をして途中棄権するなど、今年も様々なドラマがありました。私の母校、日本大学は予選会から出場しましたが、7位でフィニッシュ、来年の出場権を獲得しました。これで、来年の楽しみができました。



本年は、議員・議会が身近な存在になるための議会活動報告『貫徹通信』の議会毎の発行と「ホームページの充実」「勤労者や社会的に弱い立場の視点に立った活動」「私に寄せられる市政課題の解決に向けて、全力でとりくむこと」などを目標に、精一杯努力していきます。

本年も、皆様のご支援をお願い申し上げます。



12月議会の主な内容

12月2日から12月19日まで、12月定例議会が開催されました。主な内容は、指定管理者の指定、藤沢市市税条例の一部改正、平成25年度藤沢市一般会計補正予算などです。

なお、一般会計補正予算の補正額は、7億5,293万5千円で、補正後総額は1,235億9,412万8千円となりました。私は、市側が提案した全ての議案に賛成し、可決されました。

1. 市民病院の再整備を始めています

現在、市民病院の再整備を進めています。基本設計から変更を加え、病棟及び外来部分を中心に建築面積を増やして、入院・外来患者の療養環境・病院機能の向上を図ることとし、また、2階から3階への外来エスカレーターの設置、外来エレベーターの増設などを追加して、利用者の利便性を高めることとしました。これらにより、契約金額を83億7,900万円から95億4,146万8千円へ増額しました。

平成29年12月に全ての施設の供用開始を予定しています。また、質疑の中で路線バスが病院の敷地内まで入れるよう検討・協議を進めていること、防災対策として、非常用発電機は72時間連続稼働、飲料水は3,500人×4日分を確保することなどが確認されました。

2. 『村岡子供の家』の新たな設置について

平成25年11月末をもって閉館した「村岡子供の家」について、代替施設の設置場所及び設置までの間のとりくみについて報告がされました。

新たな施設は廃止前の施設と同程度を基本とし、藤沢市弥勒寺1丁目に建設予定地面積600㎡、隣接地263㎡で、新たに多目的室の設置を想定しており、今後の地域の児童の状況によって「児童クラブ」として活用することも視野に検討していくとしています。また、新たな子供の家設置までの平成26年1月～3月の間は、村岡公民館の協力を得て、「村岡子どもの居場所事業」が実施されます。

私は、今回の件については、9月議会で審議した、村岡子供の家「のびのびランド」の廃止とセットで示されるべきだったと思います。

今後、同様な事案が生じた場合は、市民に不安を抱かせないためにも代替策を併せて示すとともに、円滑な切り替えが可能となるよう、地権者と十分な調整をしていくことを市に望みます。

3. 湘洋中学校の津波対策の進め方について

湘洋中学校の津波による浸水状況を算定すると、校舎の校舎の3階へ避難することで対応可能なことが確認されていますが、保護者などから不安視する声が挙がっていました。

こうしたことから、市では更なる対応策として、現在、「プール施設の上部」「東校舎棟前花壇」「サブグラウンド」を候補として、「津波避難タワー」等の建設を検討しています。

私は、防災の拠点となるような複合的な機能を持たせた施設を整備すべきと考えますが、一方で、専門家の見地からすれば、避難施設の高さは想定している津波の高さと比べて相当な余裕をみているとのことであり、専門的な見地と想定外に対する地域住民や保護者の不安をどう整理していくかが課題だと考えます。

市民の不安を払しょくできる説明と整備について、税投入という意味で調整していく必要があると考えます。

4. 旧神奈川県立藤沢高等学校跡地の取り扱いについて（続報）

旧藤沢高校跡地について、その取得を求める陳情が出されました。広大な土地で、藤沢本町駅に近いこともあり、買うべきという意見も多くありました。

私は次の理由から「買うべきではない」と判断し、陳情に反対しました。

- 取得費に約25億円、造成に10億円程度かかること
- 目的の一つとされていた藤沢公民館の建替えや労働会館の建替えについては、現労働会館の建替えにあわせて複合化できること
- 文化施設（博物館など）は、今後の藤沢市公共施設再整備指針の中で検討できること
- 神奈川県と市を財政面で考察した場合・・・

【市が購入する場合】

市負担→25億円（土地）+10億円（造成）

県収入→25億円

【市が購入しない場合】

市負担→0円

県収入→民間売却により50億円

県の財政が厳しく、市に対する補助金の削減が進む現状からすると、県だから関係ないと言うのではなく、市と県のトータルで考える必要もあること

結果は、主旨不承となり、市も取得しない判断をしています。

5. 遠藤に消防出張所ができます！

遠藤方面において、救急車の到着時間が、他の地域と比べて時間がかかっていること等から、この間対応について検討が進められており、今回出張所が建設されることとなりました。

場所は遠藤市民センターの近くで、消防隊と救急隊を配置し、消防ポンプ車・救急車・ミニ広報車（軽自動車）・非常用消防ポンプ車を配備する予定です。平成28年度中に建設工事を行い、平成29年度から供用開始予定です。

6. 議会報告会をゼロベースから見直し

開かれた議会を目指し、新たな試みとして、昨年10月～11月にかけて9月議会の報告会を開催しましたが、参加者が少なく限定的であり、一部参加者の発言によって他の参加者が意見出来ないなど、建設的な進捗が困難な状況も見受けられたことから、その状況を総括したところ、今後の議会報告会のあり方について、白紙から検討し直すこととなりました。

所管するのは広報広聴委員会において、私は委員長を担っていることから、今後の方向性について苦慮していますが、県内他市への視察や学識者による課題整理及び研修会等を開催する中で、改善に向け検討していくこととしました。来年度、議会報告会を開催した際には、ぜひご参加ください。

7. 新庁舎建設に向け基本設計案が示される

平成29年度に供用開始を目指している新庁舎整備については、新たに地下駐車場や交流スペースの拡充などによって延べ床面積が37,000㎡に拡大されるとともに、消費税率の引き上げ等から、当初想定していた120億円の事業費は今後増加される見込みとなりました。

今後市民にとって便利で優しい庁舎となるよう、意見を申し入れていきます。

【新庁舎の特徴】

- 地下1階・地上10階の免震構造
- 地下階は駐車場へ国道467号線からの進入を可能とするとともに、市民利用ができるイベント広場を設置
- 1～4階の低層階に来庁者の多い窓口職場を集約し、エレベーターの他、エスカレーターを設置
- 災害対応として、屋上にヘリコプターのホバリングスペースを設置
- 建物内にオープンスペースや屋外に広場を設置することで、災害時の一次避難者や帰宅困難者等を受け入れる他、ボランティアセンターの開設等を行う

おおや徹 ホームページのご案内

おおや徹ホームページは、開設以来、多くの方にご覧いただき、おかげさまで16万回を超えるアクセスをいただいております。

議会状況を迅速に報告しているほか、コラムでは趣味の食べ歩きを活かして、近隣の美味しいお店などを紹介しています。最近では、こちらの報告も楽しみにしているとの声も多くいただいております。

藤沢市をもっと良く知って好きになってもらえたらと思いながら更新していますので、是非ご覧ください！

アドレス：<http://www.ohya-toru.com/>

おおや徹

検索

クリック